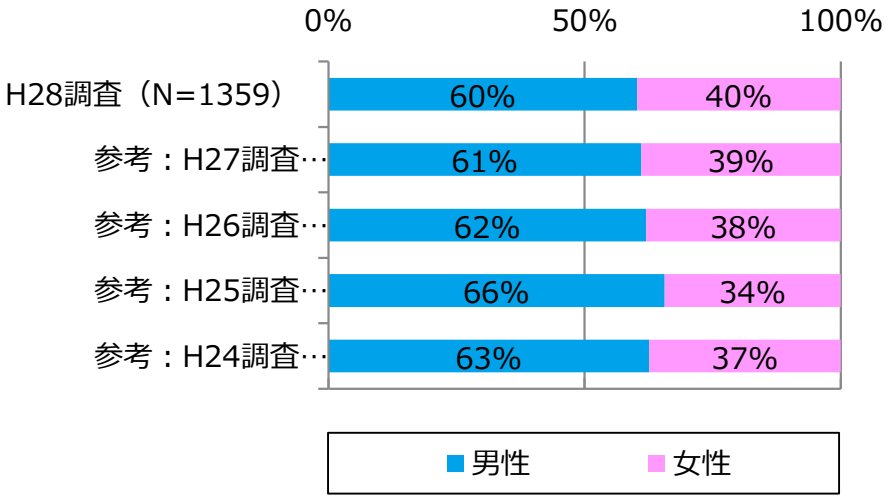
地域おこし協力隊の現状と定住に向けた課題

~H28年度　JOIN地域おこし協力隊アンケート集計結果の概要

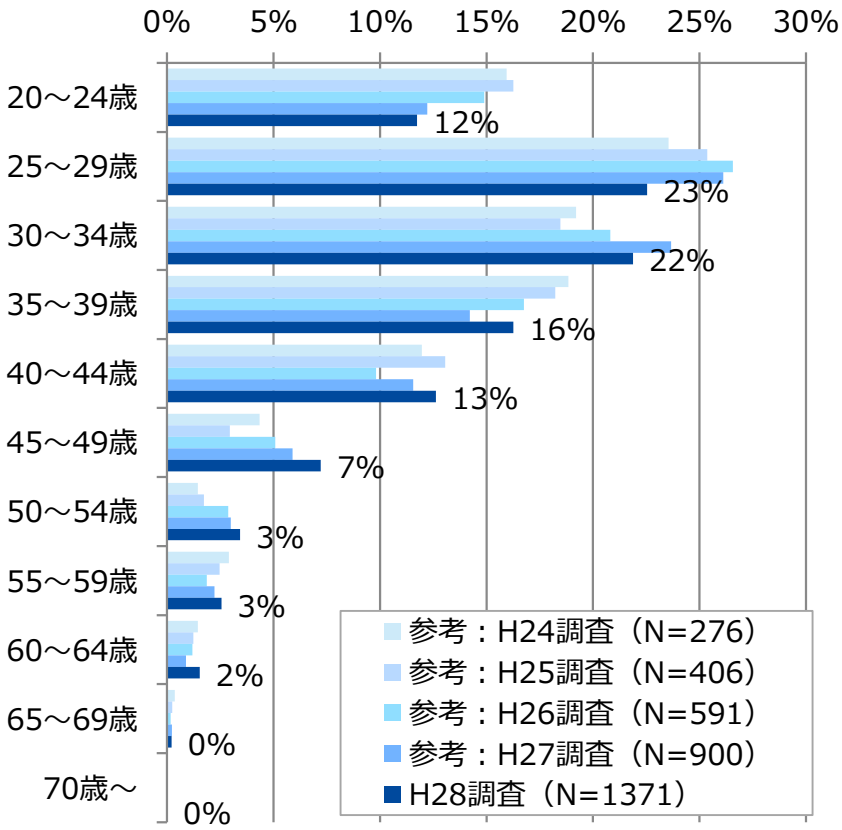
※本調査は、一般社団法人 移住・交流推進機構が株式会社 価値総合研究所に委託し実施いたしました。

1．回答者の属性①　（性別、年齢）

○性別



○年齢



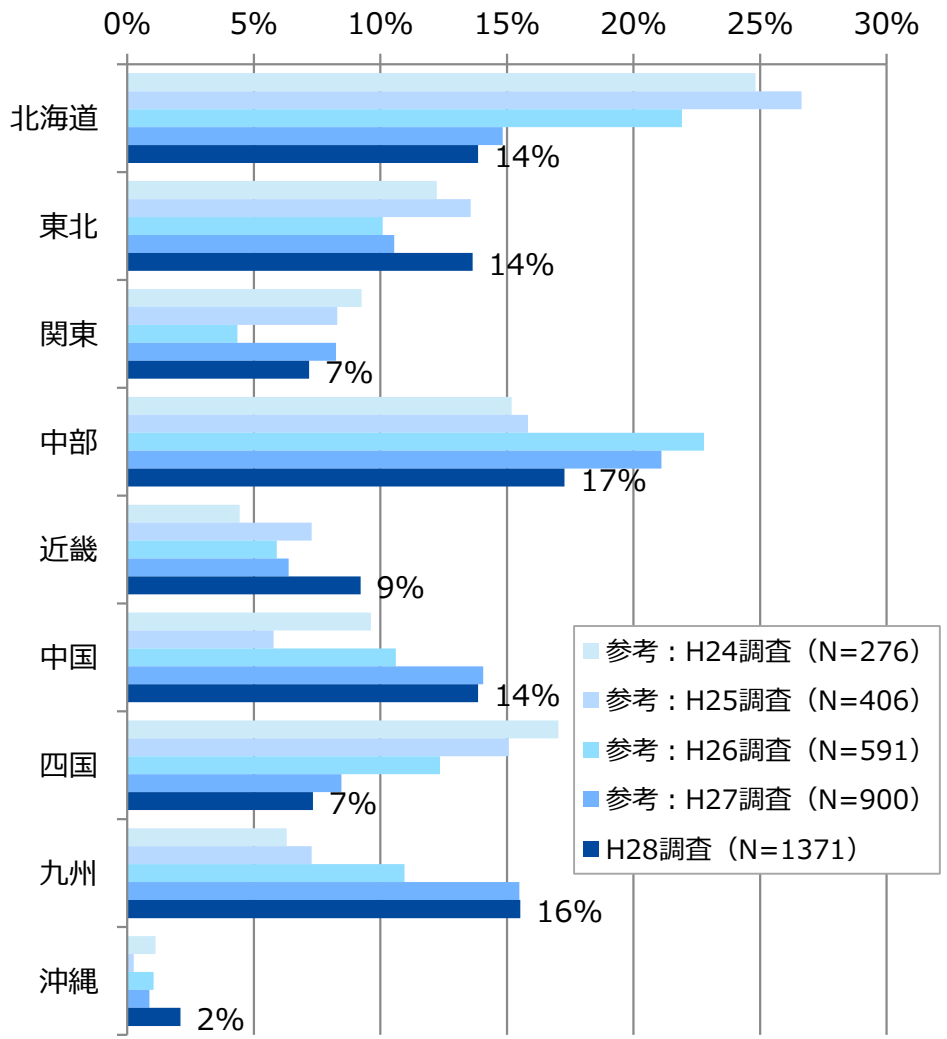
•40代以降の割合が上昇し、平均年齢も上昇

<回答者平均年齢>

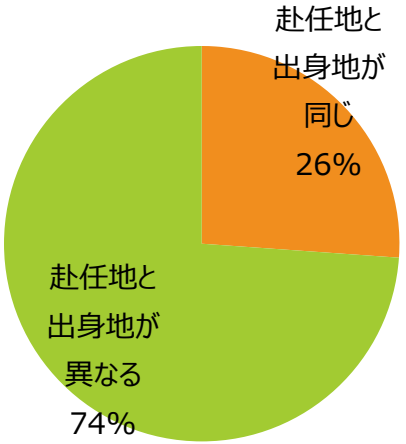
回答者平均年齢（H28）	34.7歳
参考：H27調査	33.7歳
参考：H26調査	33.2歳
参考：H25調査	32.8歳
参考：H24調査	33.3歳

1．回答者の属性②　（赴任先、赴任時期）

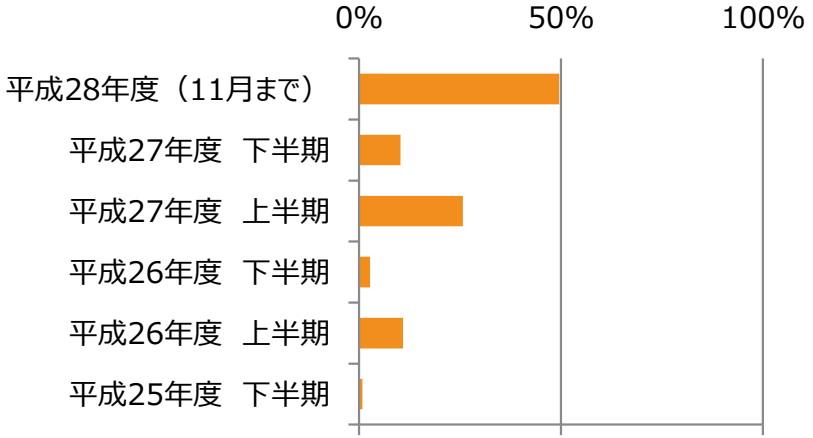
○赴任先（居住地）



○赴任先と出身地との関係

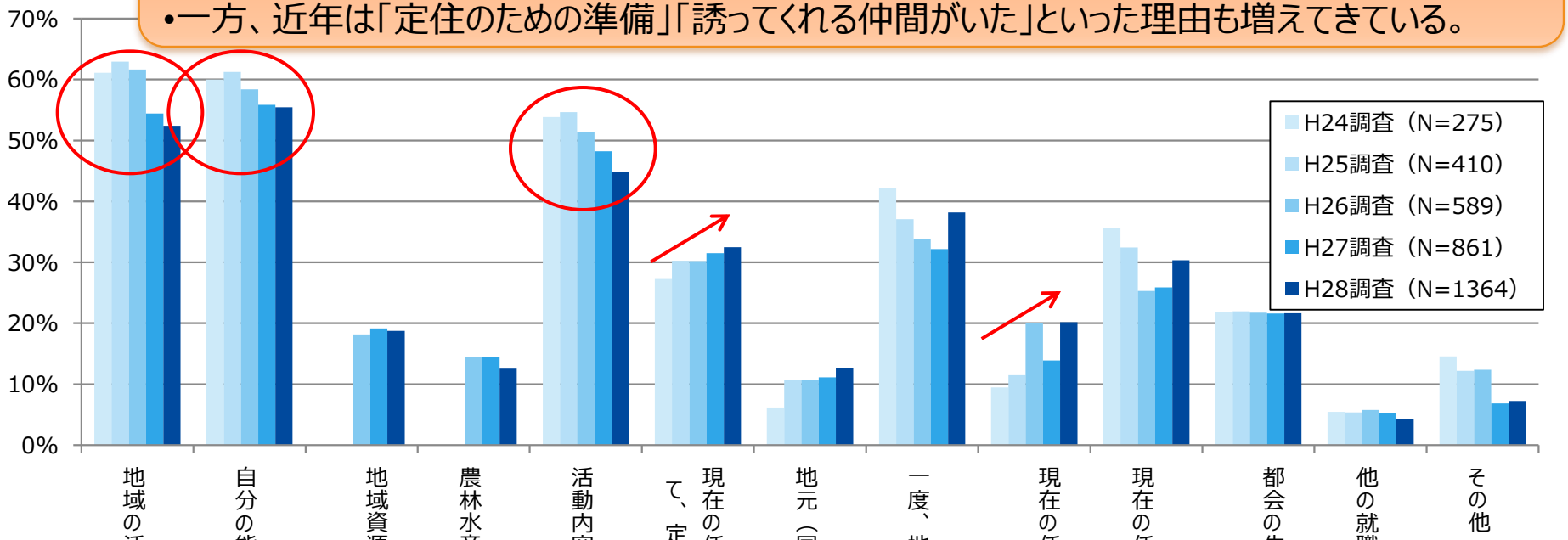


○赴任時期



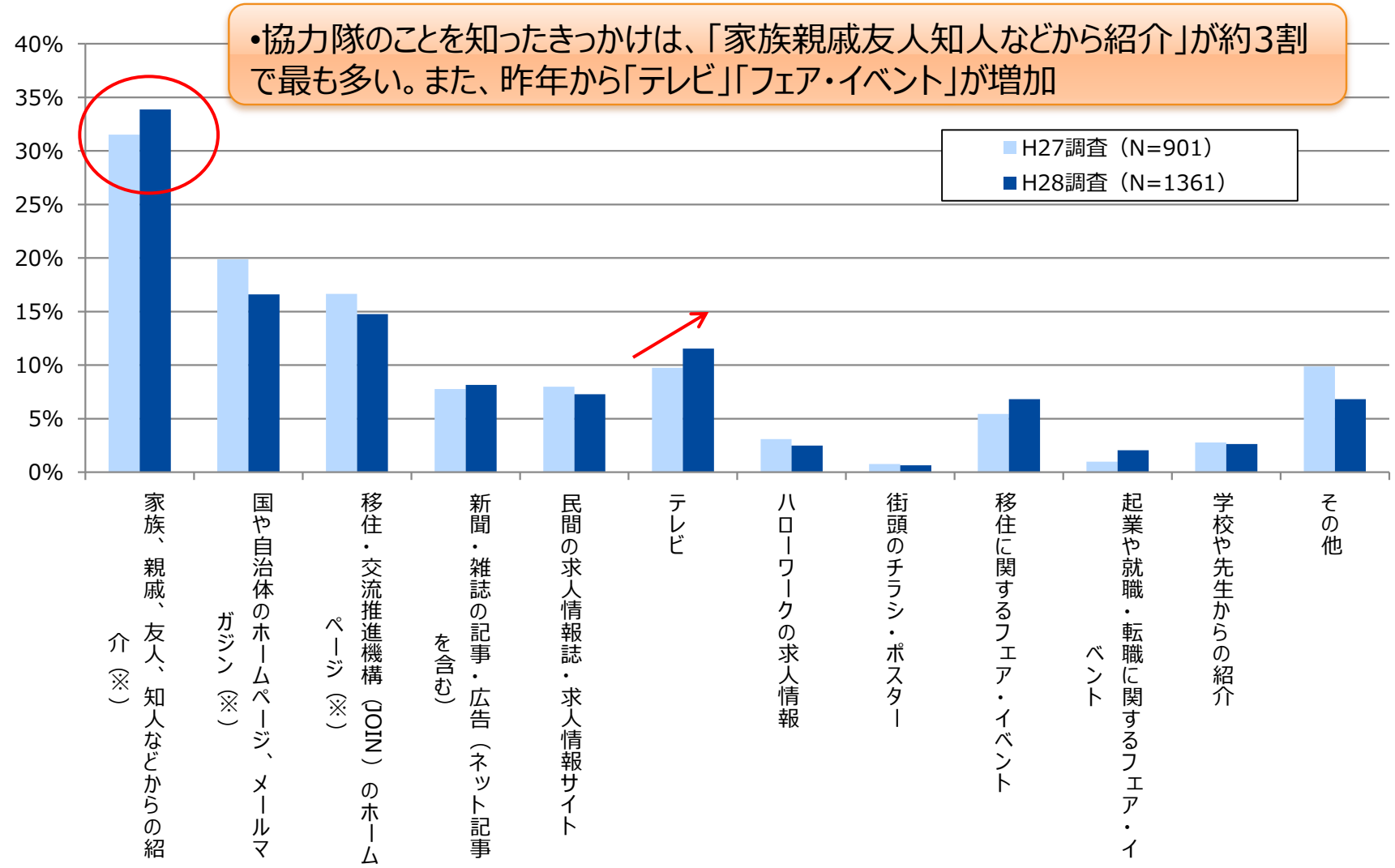
2．地域おこし協力隊に応募した理由

•「自分の能力や経験を活かせる」「地域の活性化の役に立ちたい」「活動内容がおもしろそう」といった理由が多いが、これらの割合は減少傾向となっている。
•一方、近年は「定住のための準備」「誘ってくれる仲間がいた」といった理由も増えてきている。



3．地域おこし協力隊に関する情報の入手手段①

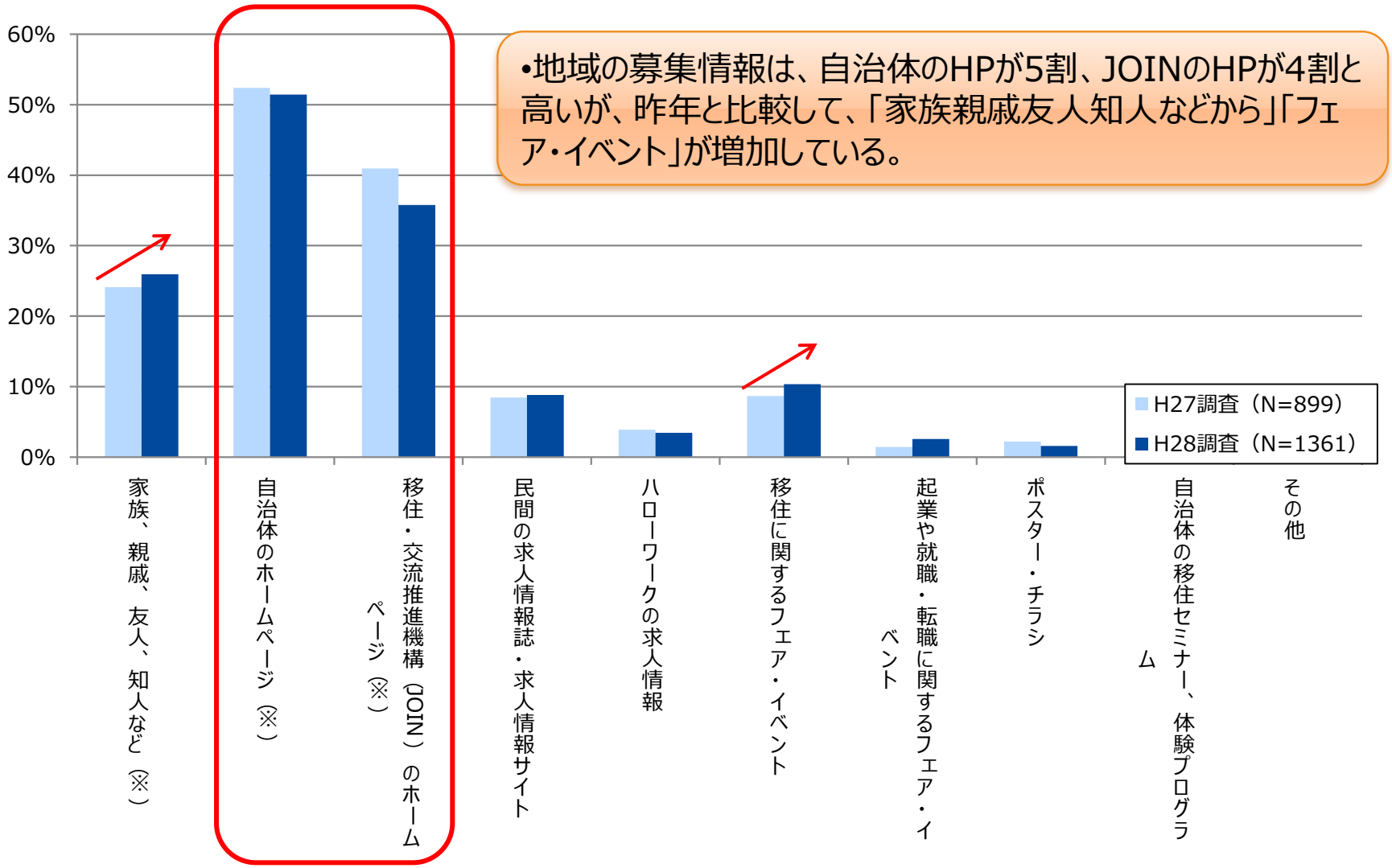
○はじめて「地域おこし協力隊」のことを知ったきっかけ



※ブログ、SNS（FACEBOOK、LINE等）も含む

3．地域おこし協力隊に関する情報の入手手段②

○現活動地域の募集要項や地域に関する情報

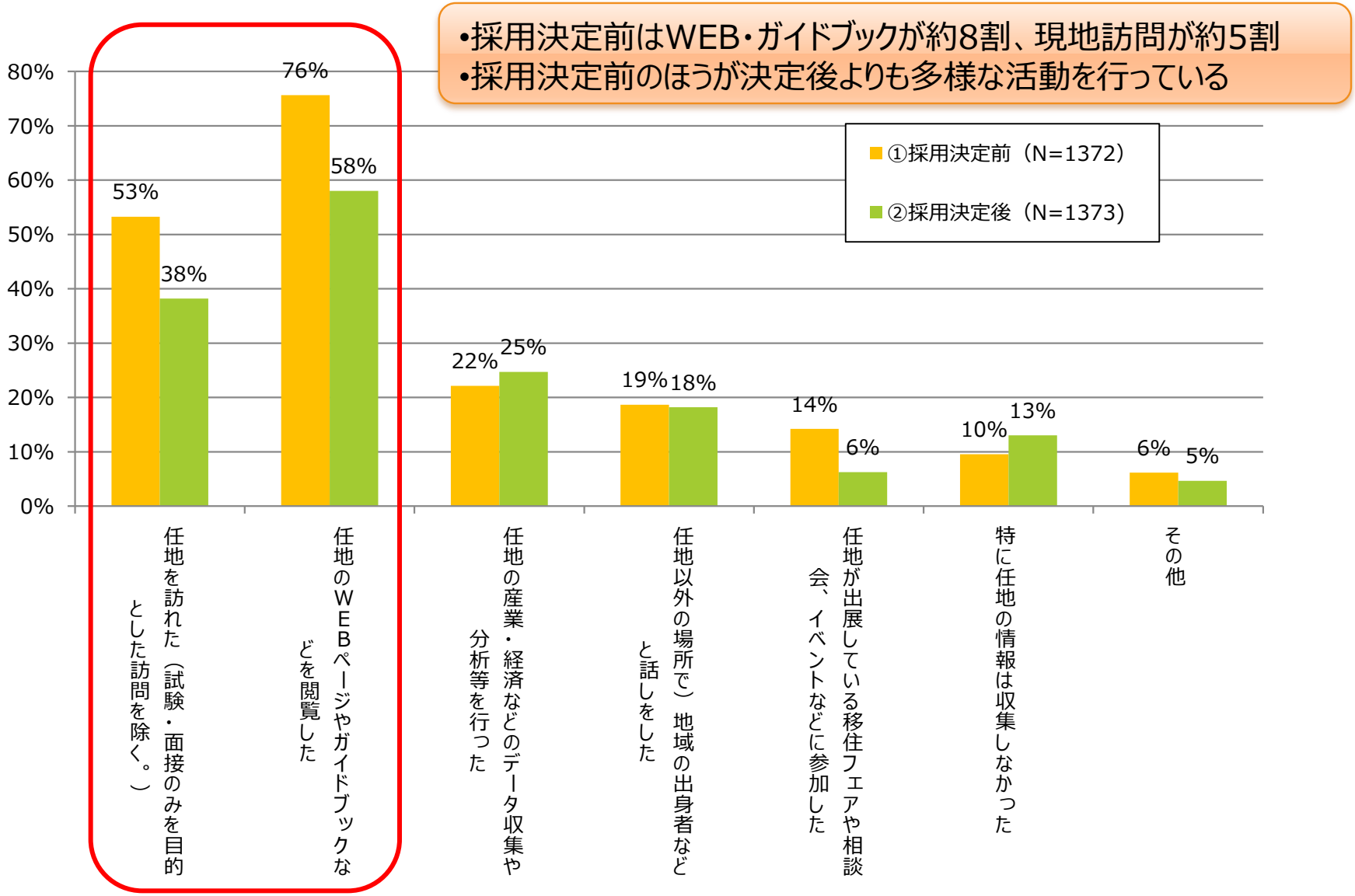


•地域の募集情報は、自治体のHPが5割、JOINのHPが4割と高いが、昨年と比較して、「家族親戚友人知人などから」「フェア・イベント」が増加している。

※ブログ、SNS（FACEBOOK、LINE等）も含む

3．地域おこし協力隊に関する情報の入手手段③

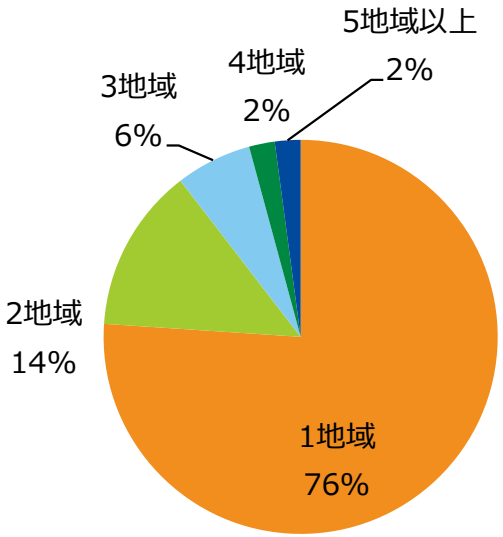
○現在着任している地域を理解するための情報収集活動



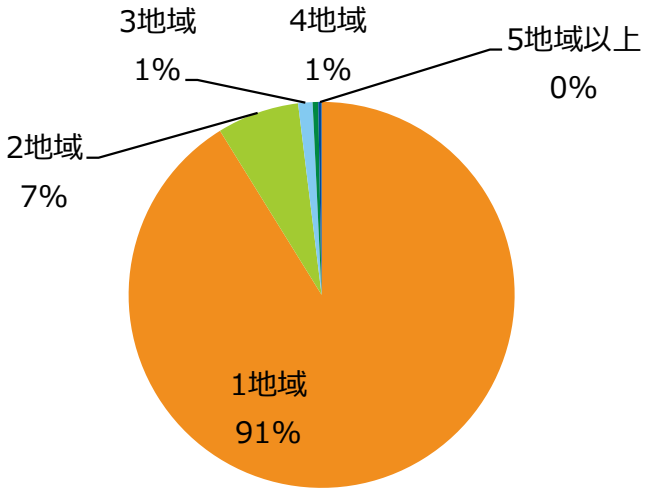
４．地域おこし協力隊の応募・内定・決定①

•8割近くが、1地域の応募

○応募した地域の数（N=1044）

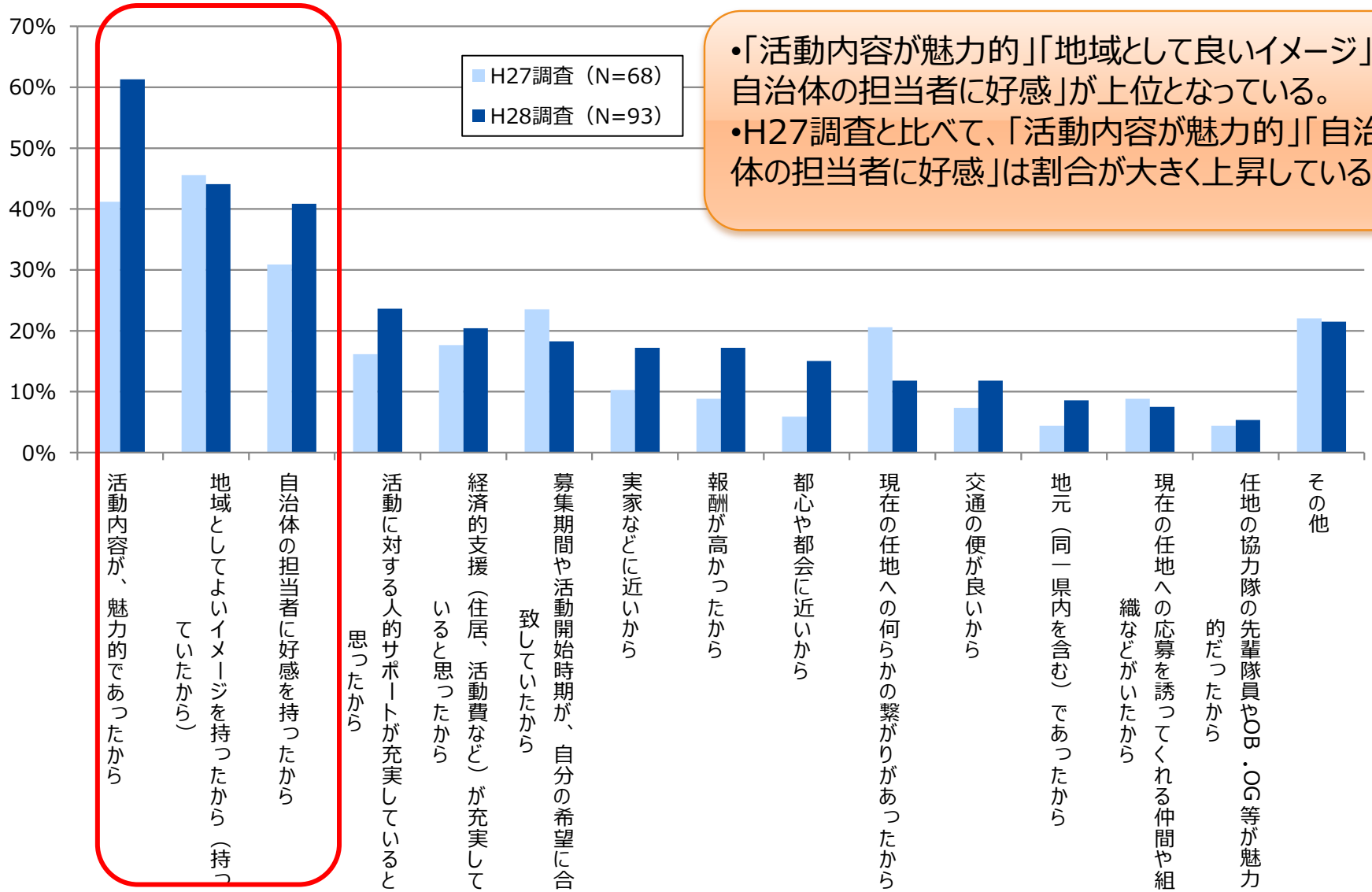


○内定を得た地域の数（N=1076）



4．地域おこし協力隊の応募・内定・決定②

○（２地域以上の内定を得た場合、）現在の地域に決めた理由

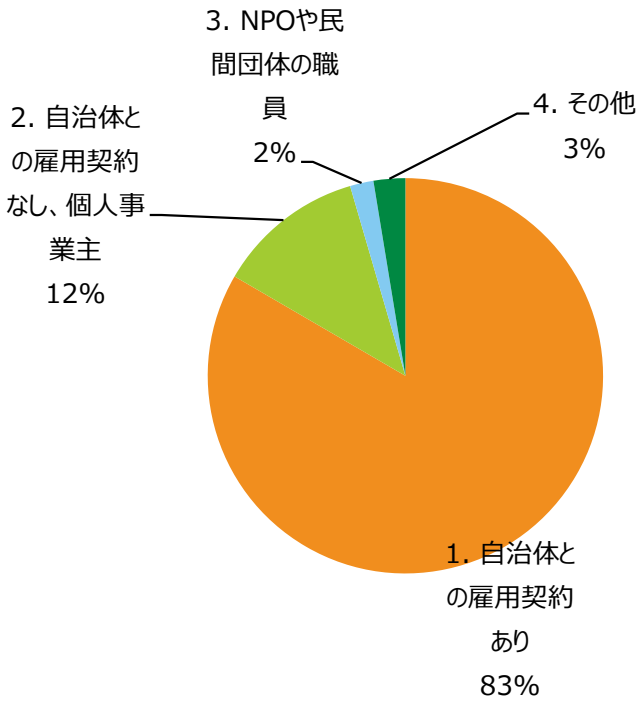


- 「活動内容が魅力的」「地域として良いイメージ」「自治体の担当者に好感」が上位となっている。
- H27調査と比べて、「活動内容が魅力的」「自治体の担当者に好感」は割合が大きく上昇している。

5．地域おこし協力隊としての活動状況①

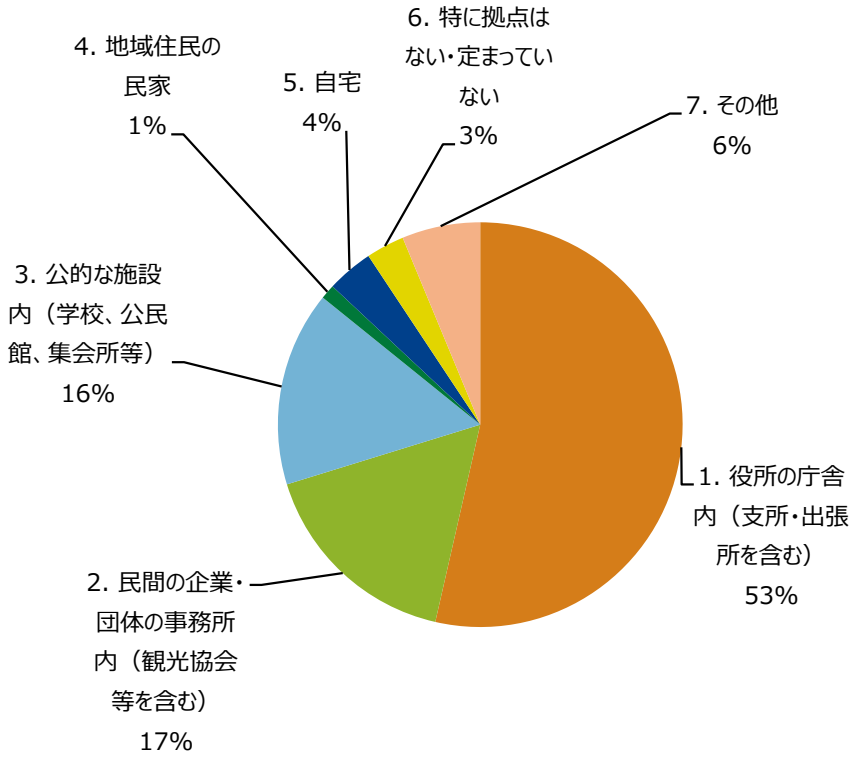
•「自治体との雇用契約あり」が8割超

○雇用形態（N=1352）



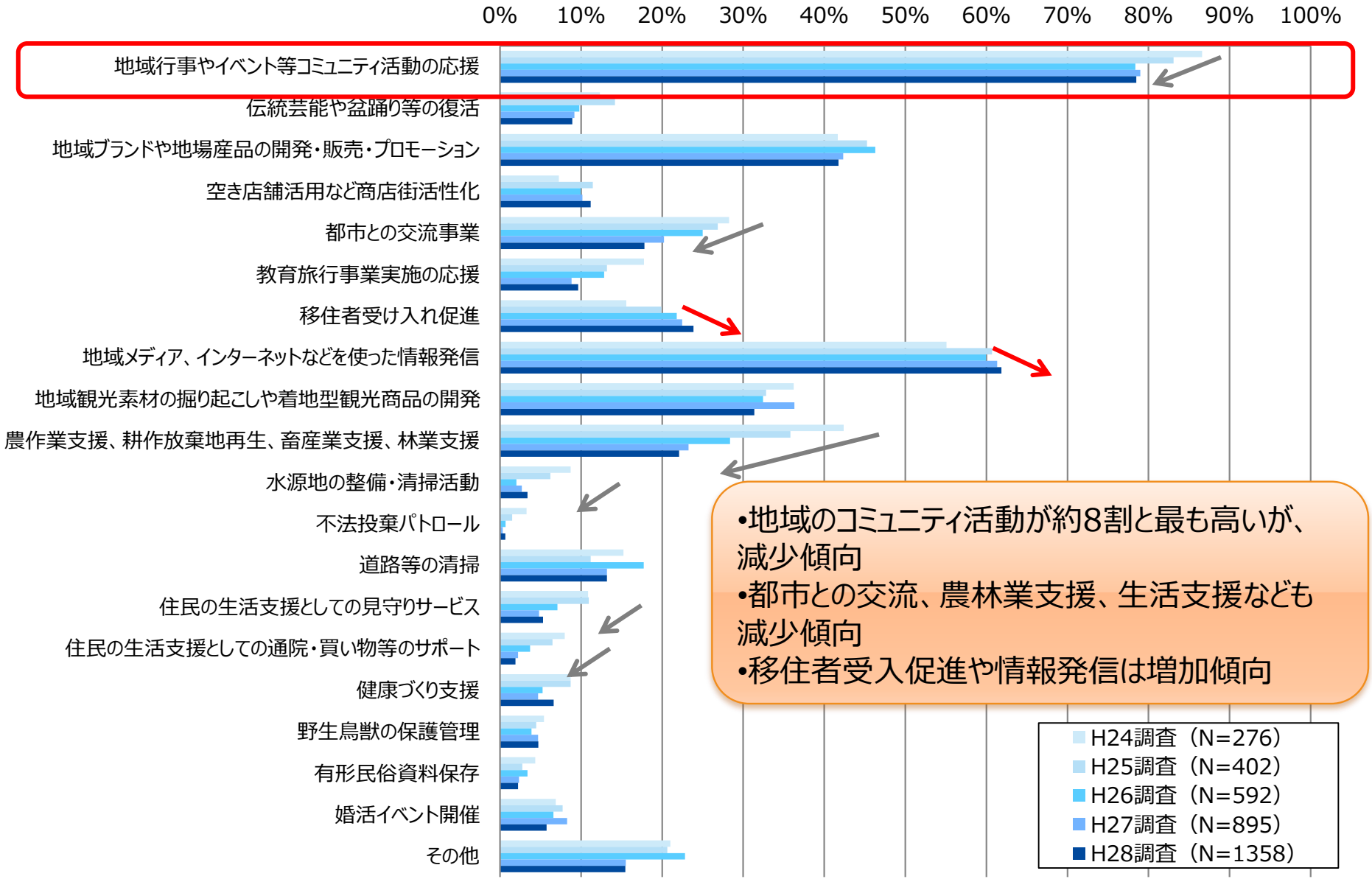
•活動拠点は「役所の庁舎内」が5割超

○活動拠点（N=1374）



5．地域おこし協力隊としての活動状況②

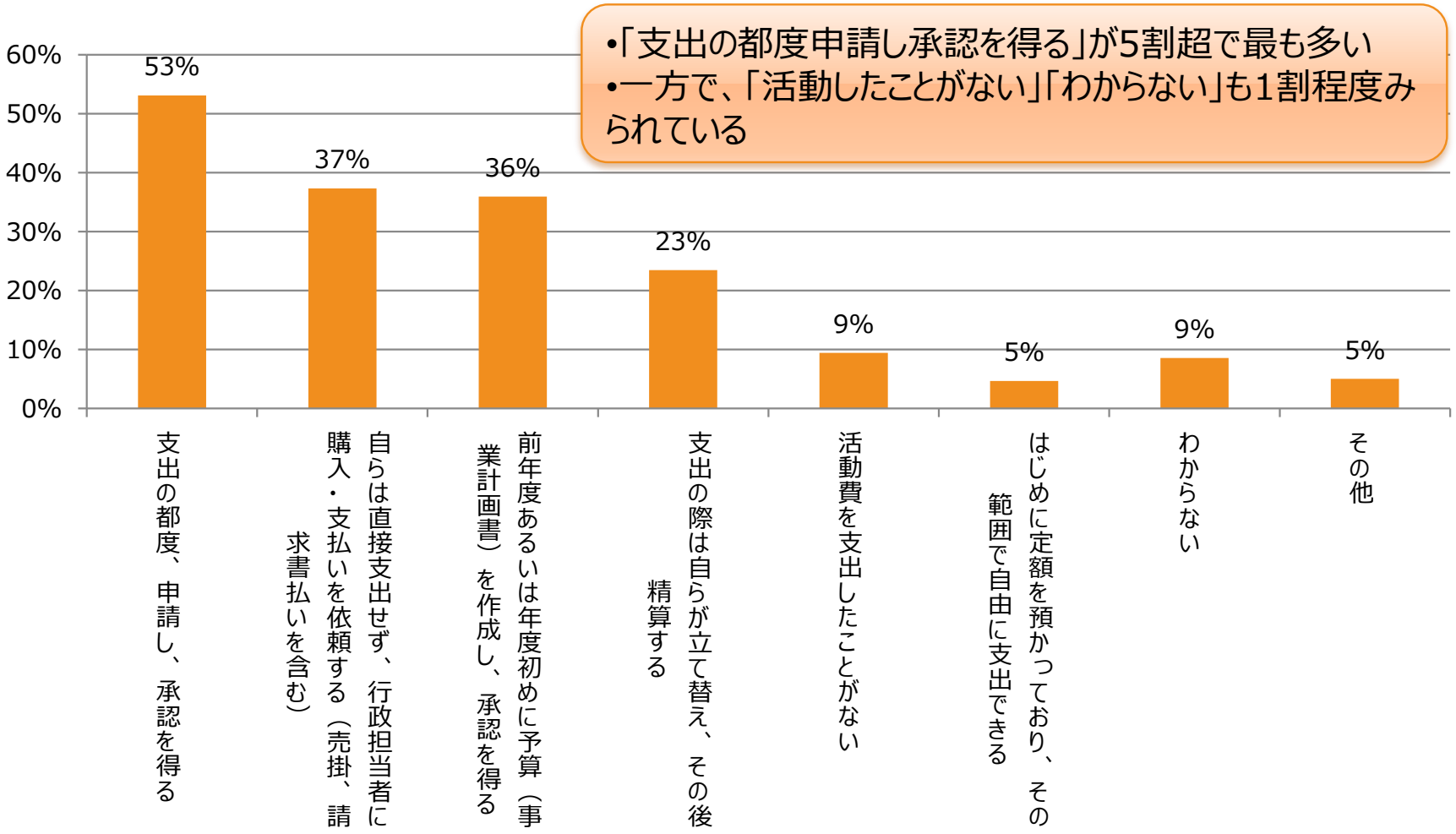
○現在取組んでいる活動



- 地域のコミュニティ活動が約8割と最も高いが、減少傾向
- 都市との交流、農林業支援、生活支援なども減少傾向
- 移住者受入促進や情報発信は増加傾向

5．地域おこし協力隊としての活動状況③

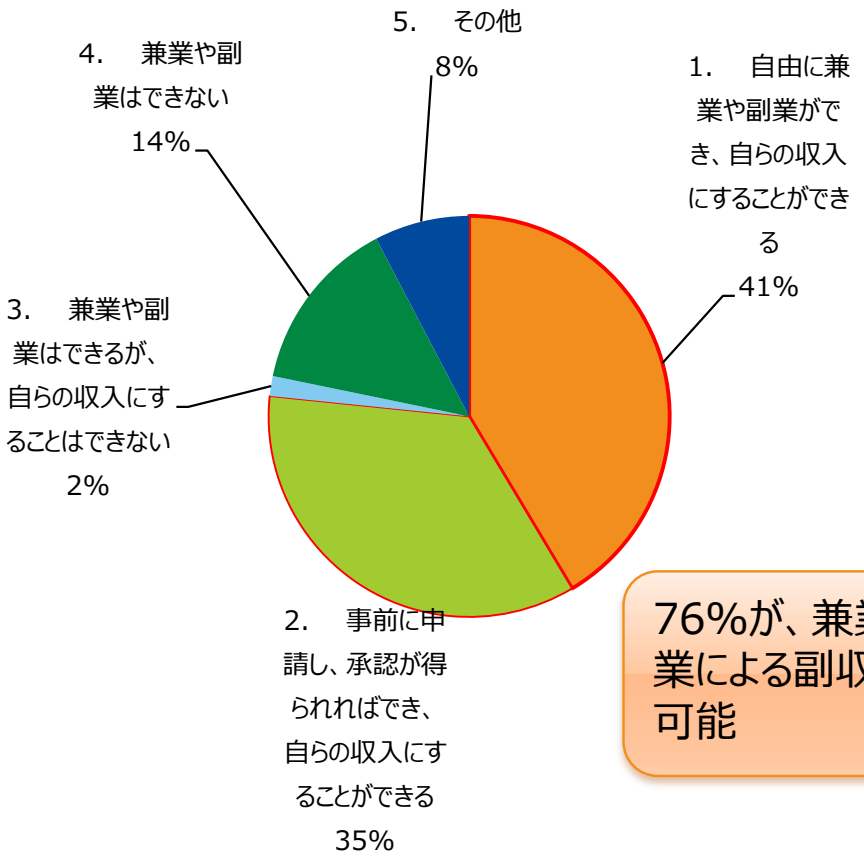
○活動内容に応じた使途に充てることができる経費（※）を支出しようとした場合に必要な手続き（N=1369）　（※例えば、作業道具代、消耗品代、商品開発時の材料費など）



- 「支出の都度申請し承認を得る」が5割超で最も多い
- 一方で、「活動したことがない」「わからない」も1割程度みられている

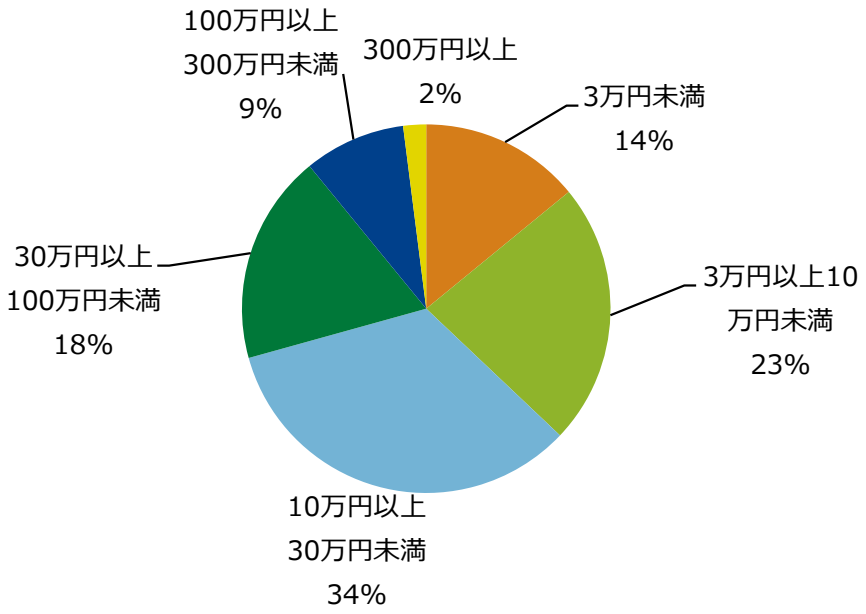
5．地域おこし協力隊としての活動状況④

○兼業・副業の可否（N=1369）



76%が、兼業・副業による副収入が可能

○（兼業・副業による副収入が可能な場合）昨年度の収入額（N=348）

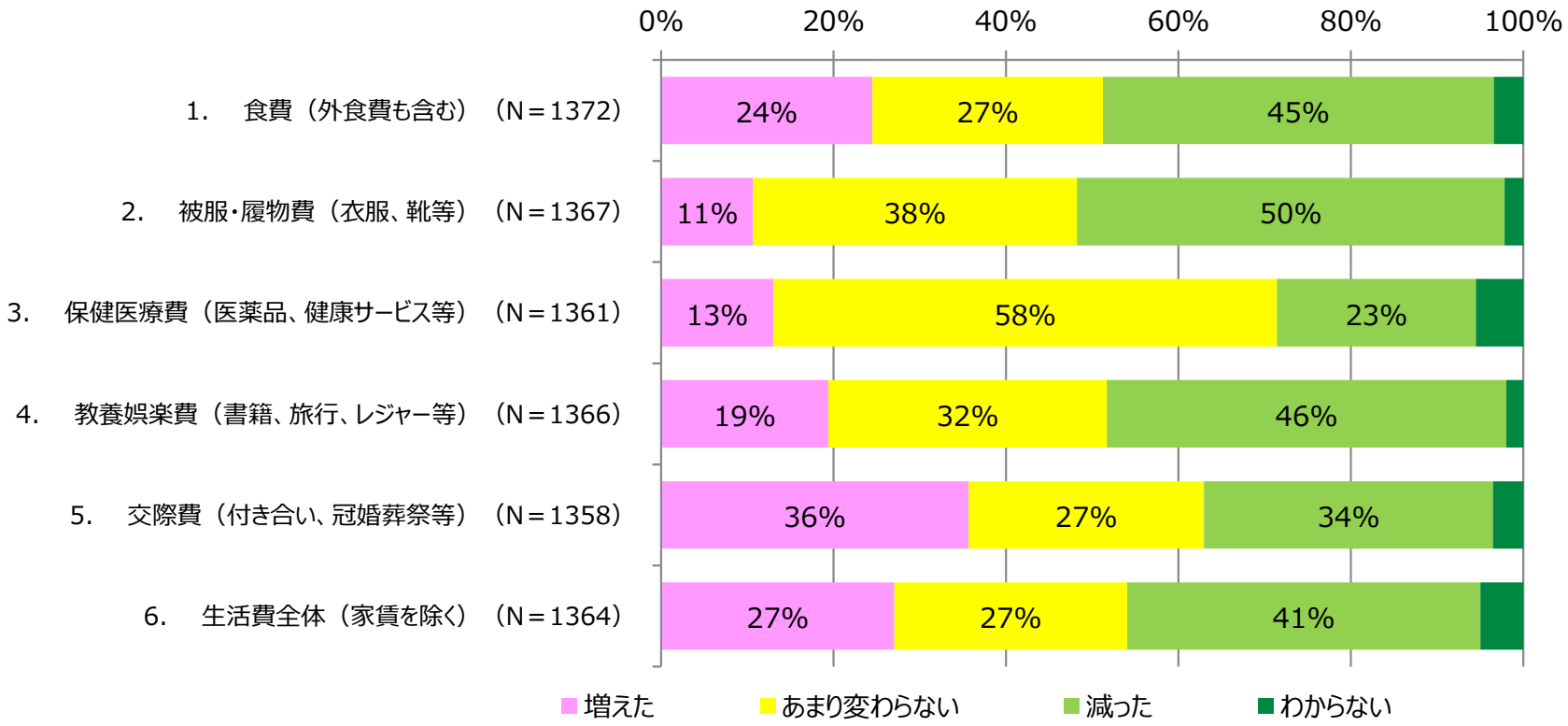


平均収入額（1円以上の収入があった隊員）　：39 万円

５．地域おこし協力隊としての活動状況⑤

○赴任前と比較しての生活費（家計消費支出）の状況

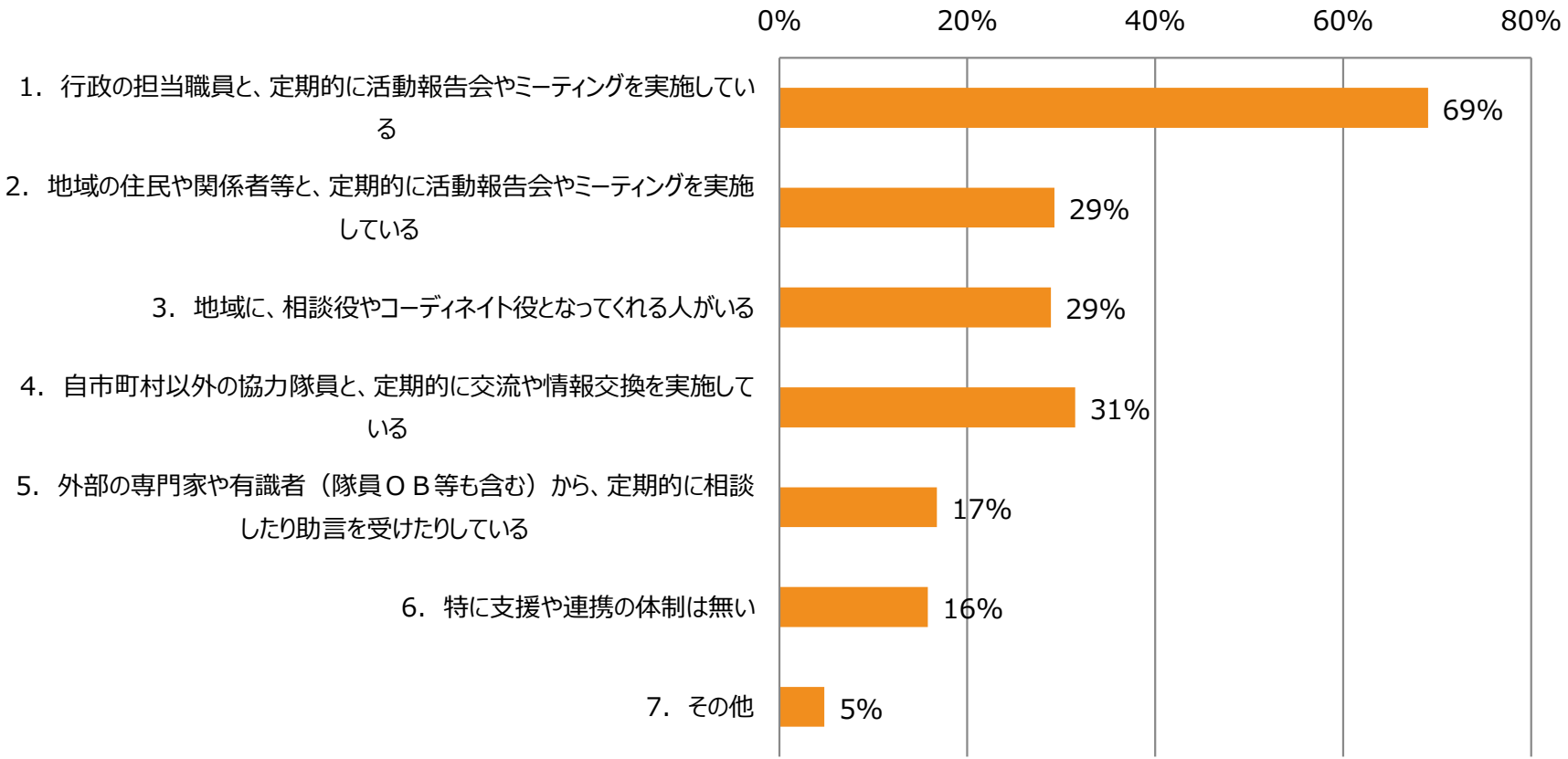
- 生活費全体は、41%が「減った」と回答
- 保健医療費は58%が「あまり変わらない」と回答
- 交際費は36%が「増えた」と回答



５．地域おこし協力隊としての活動状況⑥

○活動にあたっての地域での支援・連携体制（N=1353）

- 約7割が、行政の担当職員と定期的なミーティングを実施
- 一方で、「特に支援や連携の体制は無い」が16%

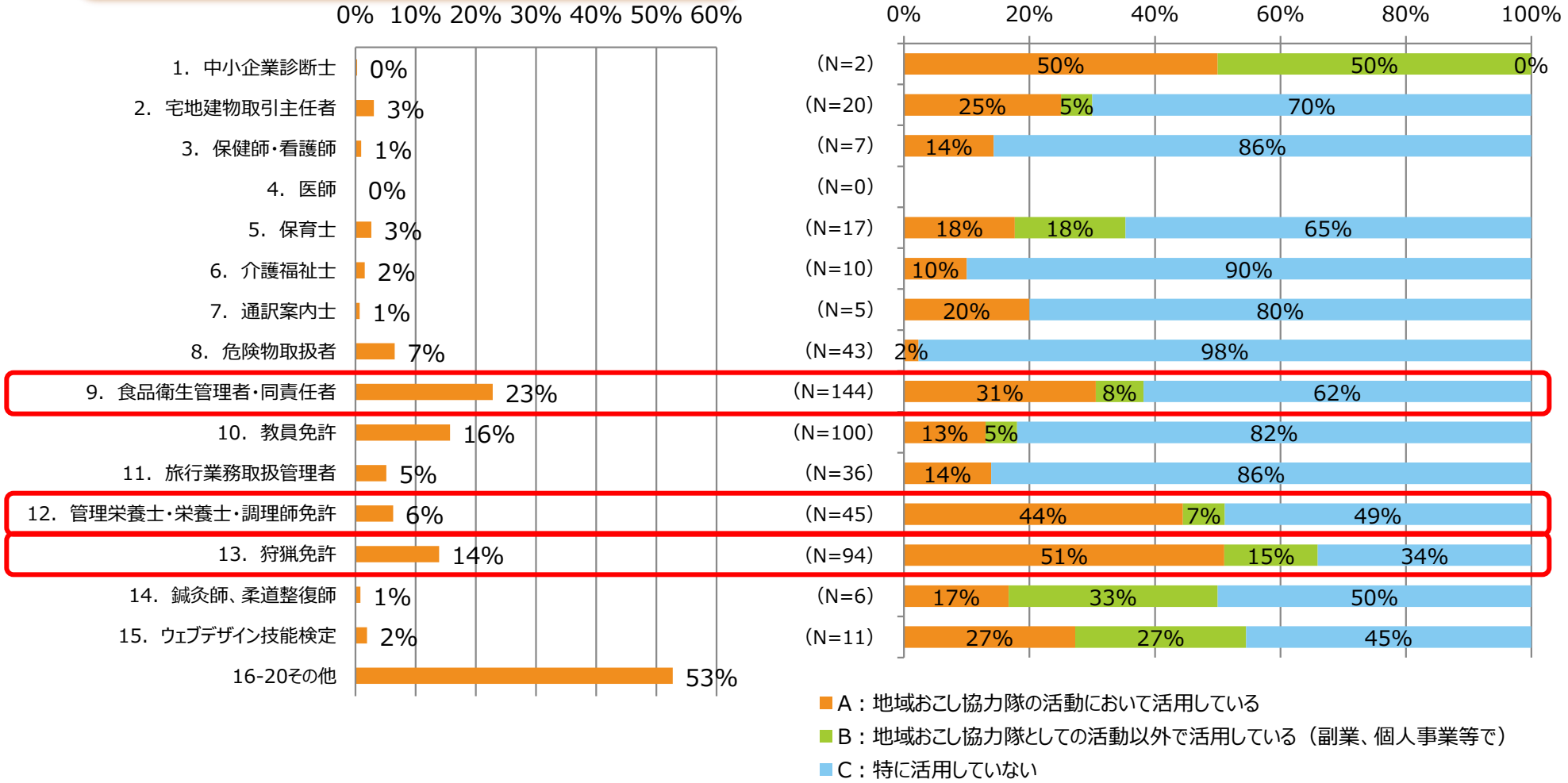


5．地域おこし協力隊としての活動状況⑦

○保有する資格

•保有者が比較的多い（1割以上）のは、食品衛生管理者・責任者、教員免許、狩猟免許となっている。

•保有する資格（N=10以上）のうち、食品衛生管理者、栄養士・調理師免許、狩猟免許は、協力隊活動において活用している割合が比較的高い。



6．地域おこし協力隊としての活動への評価（期待度・満足度）

期待度＞満足度　（差が0.5ポイント以上）

期待度＜満足度　（差が0.5ポイント以上）

※各設問の回答を右記により点数化し、平均点を算出

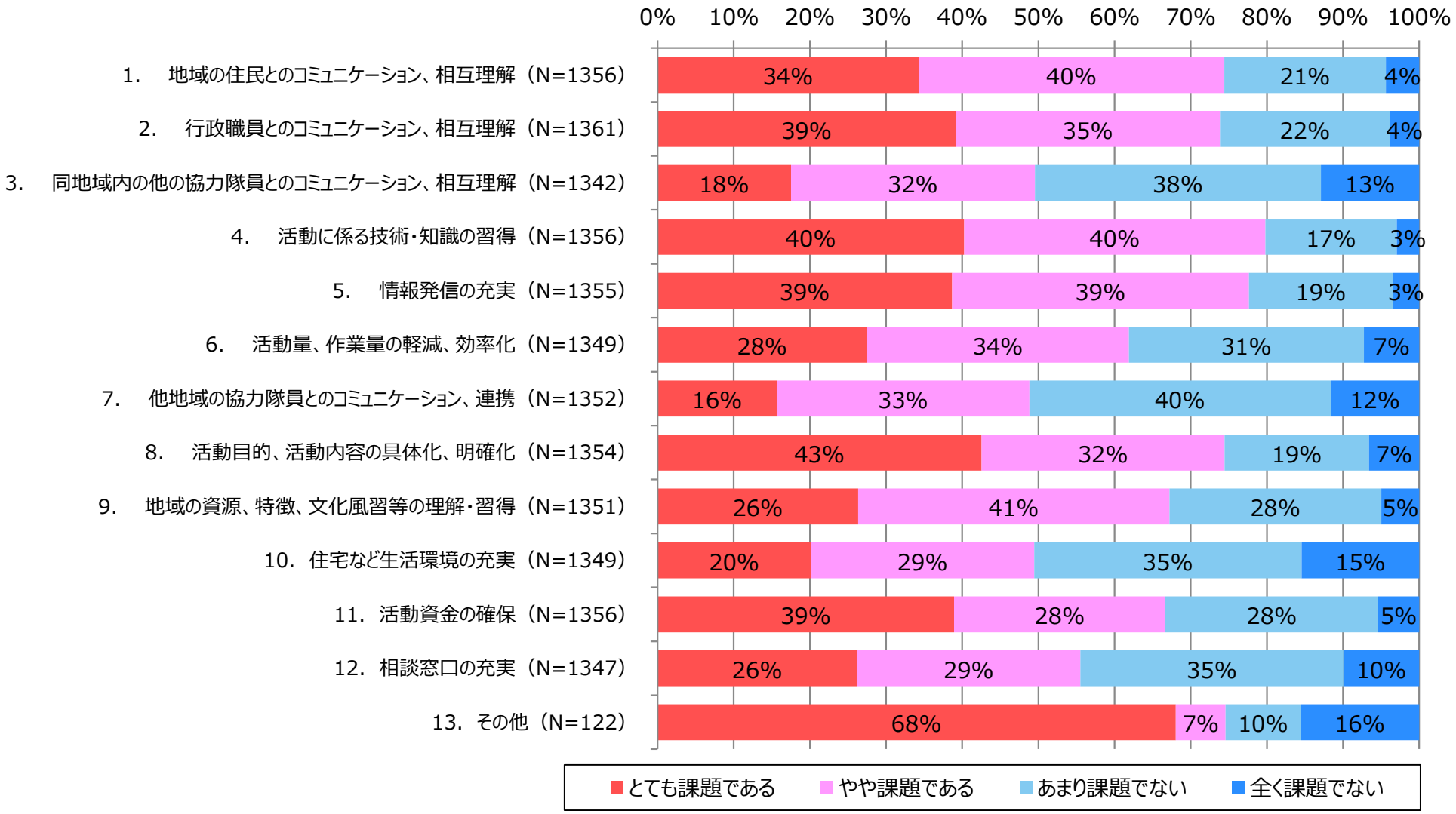
①事前の「期待度」
5：とても期待していた
4：やや期待していた
3：どちらともいえない
2：あまり期待していなかった
1：全く期待していなかった
（高い ↕ 低い）

②現在の「満足度」
5：とても満足
4：やや満足
3：どちらともいえない
2：やや不満
1：とても不満
（高い ↕ 低い）

項目（期待や満足の視点）	平成24年調査（N=278）		平成25年調査（N=412）		平成26年調査（N=600）		平成27年調査（N=891）		平成28年調査（N=1360）	
	期待度	満足度	期待度	満足度	期待度	満足度	期待度	満足度	期待度	満足度
（1）活動を通じて、自己実現を感じられること	3.9	3.4	4.1	3.3	4.0	3.3	4.0	3.2	4.0	3.3
（2）活動そのものがおもしろいこと	3.9	3.7	4.1	3.7	4.1	3.7	4.1	3.6	4.1	3.6
（3）地域（住民や自治体など）から自分の活動や働きが認められ、評価されること	3.1	3.2	3.1	3.4	3.1	3.3	3.1	3.3	3.2	3.3
（4）地域の広報誌やマス媒体などで取り上げられたり、注目されたりすること	2.2	3.3	2.3	3.4	2.2	3.3	2.3	3.3	2.3	3.3
（5）地域（住民や自治体など）から受け入れられ、良好な人間関係を築けること	3.7	3.9	3.7	3.9	3.7	3.8	3.6	3.7	3.7	3.8
（6）地域に心を開ける友達がいること、できること	3.1	3.5	3.1	3.5	3.1	3.4	3.1	3.4	3.1	3.4
（7）報酬や活動費などにより、生活に困らないこと	2.9	3.1	3.0	3.1	2.9	3.1	2.9	3.0	2.9	3.0
（8）不満や不便を感じない住居に住めること	2.9	3.5	2.8	3.5	2.8	3.5	2.9	3.5	3.0	3.5
（9）地域（住民、自治体、NPO法人など）が活動をバックアップしてくれること	3.3	3.2	3.4	3.3	3.4	3.3	3.4	3.1	3.4	3.2
（10）活動を通じて、任期終了後の生活がイメージできるようになること	3.6	3.0	3.6	3.1	3.6	3.0	3.6	3.0	3.7	3.0
総合評価		3.4		3.4		3.3		3.3		3.3

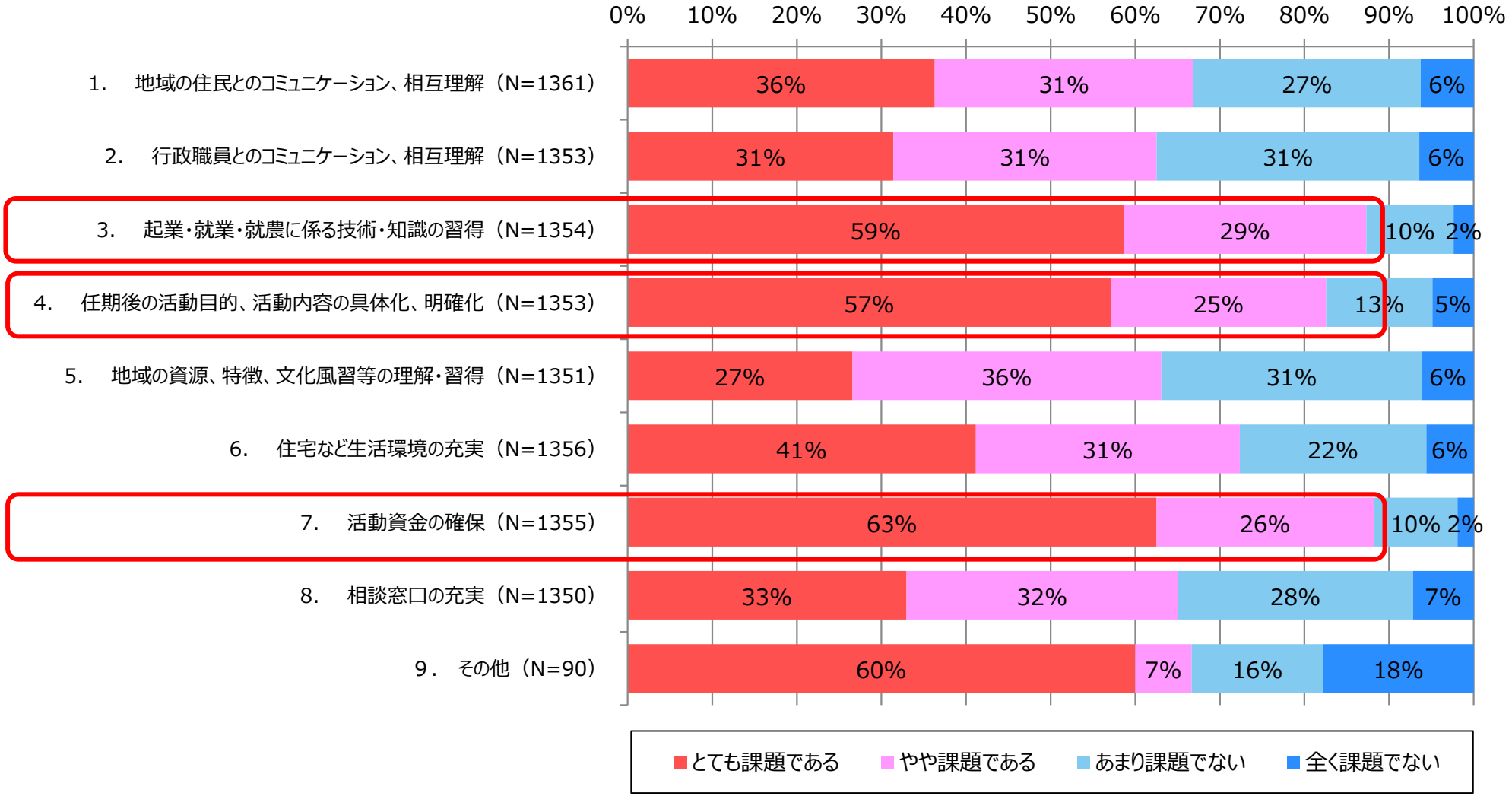
7．今後の活動に向けての課題

•今後の活動に向けての課題としては、ほとんどの項目で５割以上の隊員が課題としているが、特に「コミュニケーション」「技術・知識」「情報発信」「活動目的、内容の具体化明確化」を挙げる隊員が多い。



８．今後の定住に向けての課題

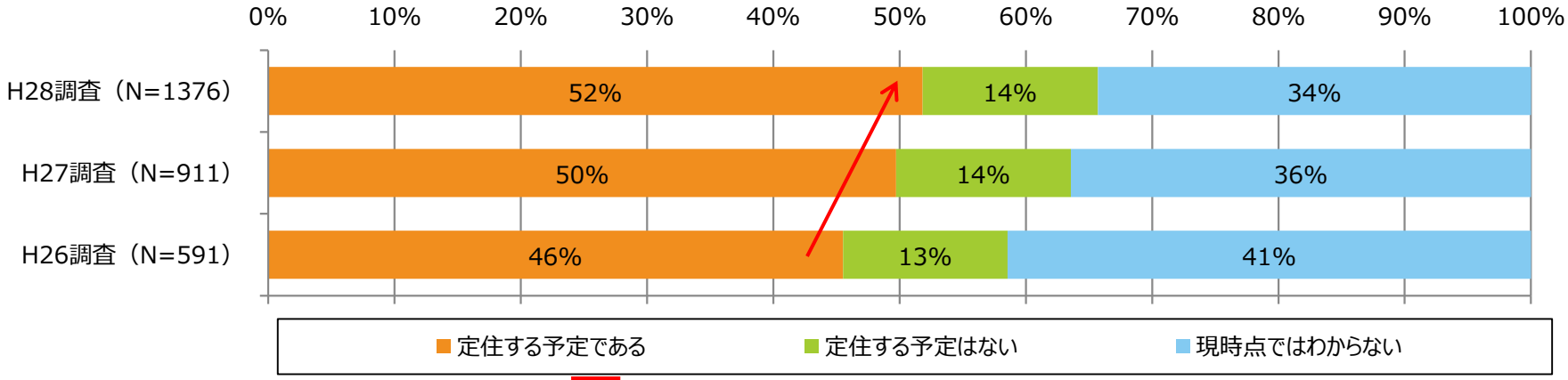
•定住に向けての課題としては、「技術・知識」「活動目的、内容の具体化明確化」「活動資金の確保」が8割を超えており特に多い。



９．任期終了後の意向①

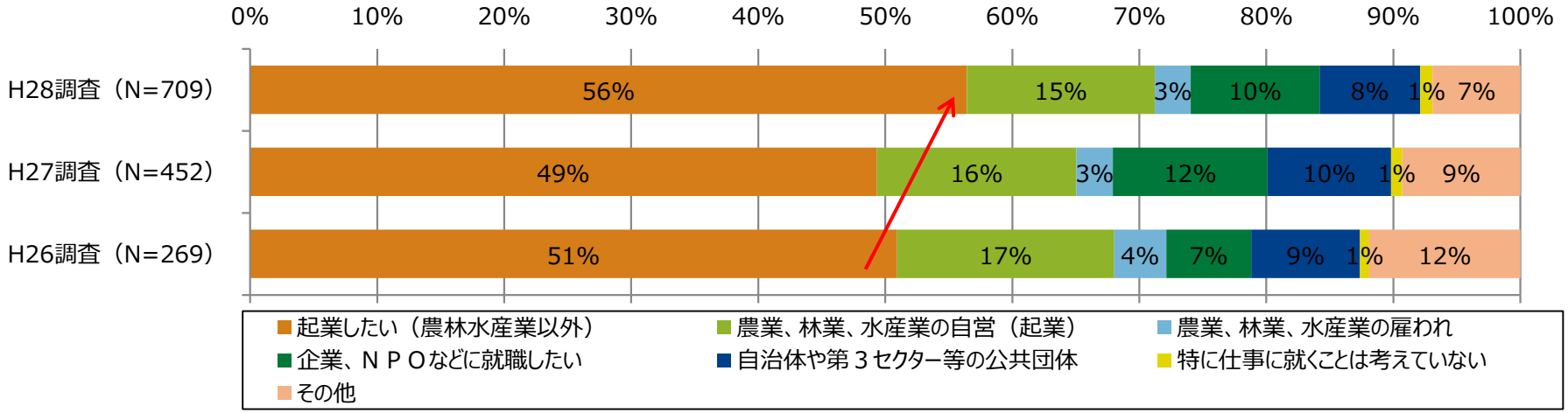
○定住意向

•定住予定の割合は増加傾向



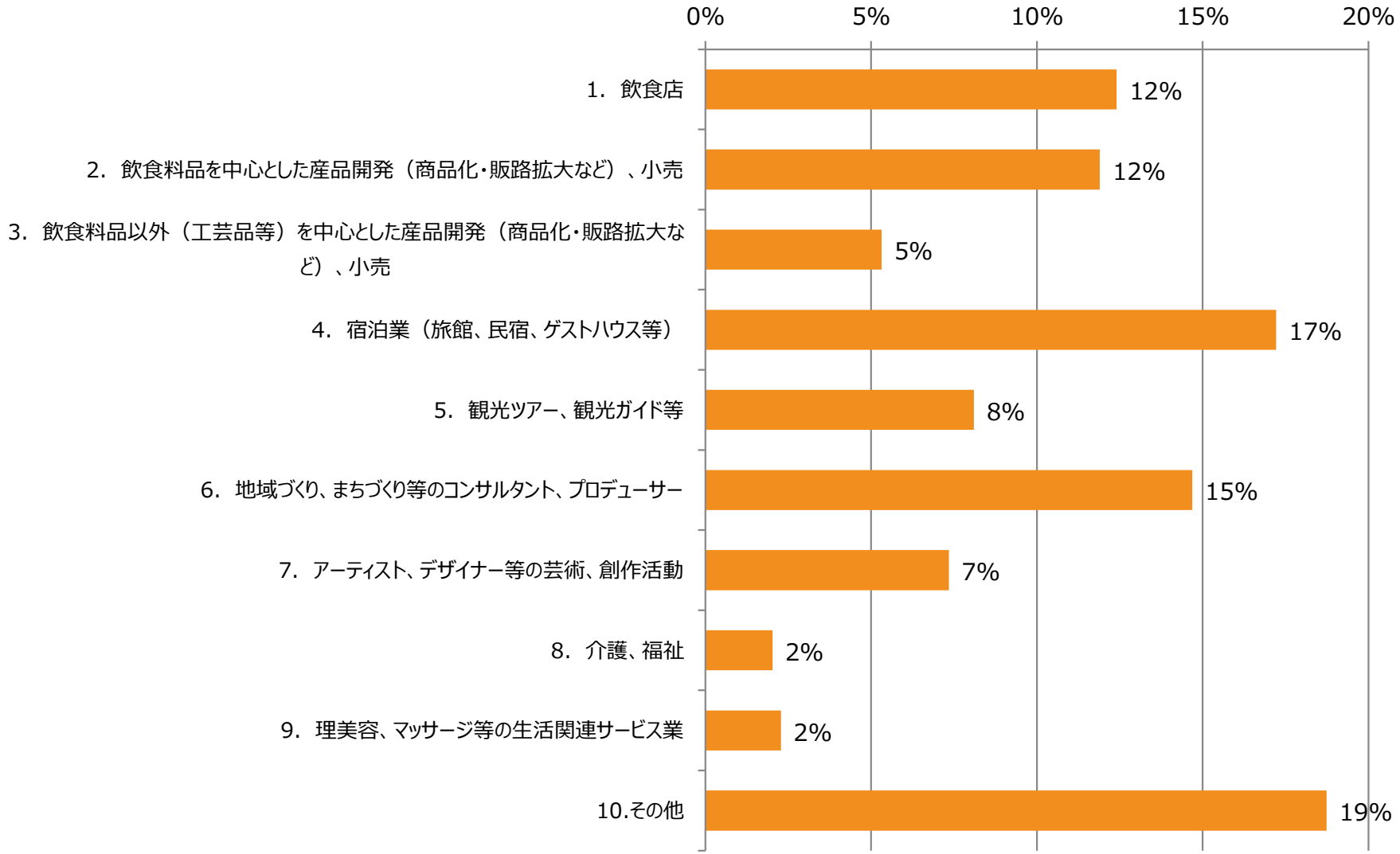
○（定住予定の場合の）仕事の意向

•起業意向が増加



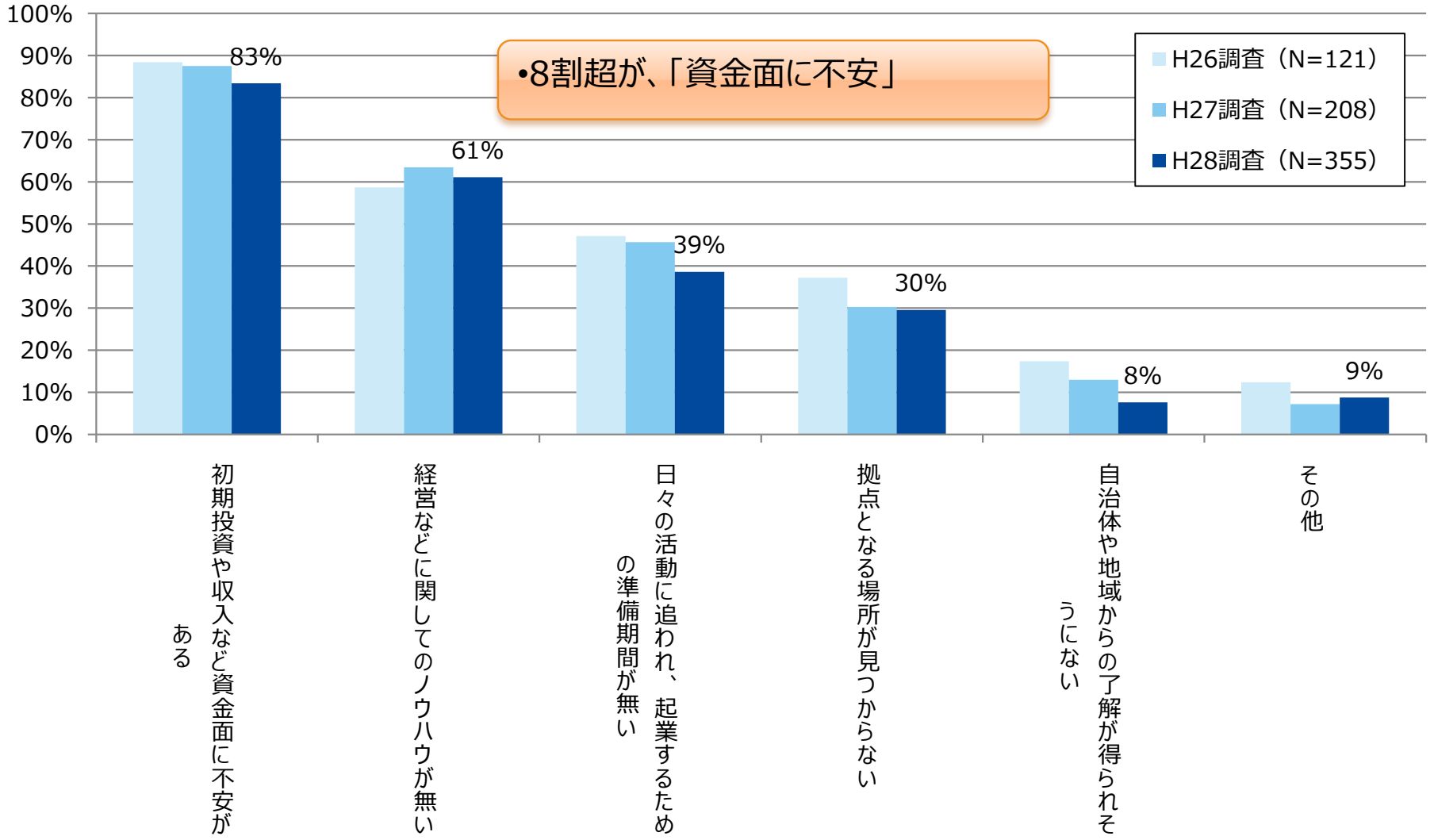
９．任期終了後の意向②

○（起業したい場合の）事業分野（SA・N＝395）



10. 起業にあたっての課題

○（起業したい場合の）課題・悩み



11. 協力隊アンケート調査の総括

募集・採用

◆地域おこし協力隊になる理由

- 「地域の役に立ちたい」、「自分の経験を活かしたい」、「面白い活動をしたい」といった理由が多いが、最近は「定住の準備」「仲間が誘ってくれた」といった理由も増えている

◆応募のプロセス

- 地域の募集情報は、自治体やJOINのホームページからの入手が多いが、身近な人やフェアイベントから入手するケースも増えている。

◆地域の選定条件

- 複数内定した場合の選定においては「活動内容が魅力的」「地域として良いイメージ」「自治体の担当者に好感」といった要素が選定の条件として上位となっている。

活動

◆活動内容

- 地域のコミュニティ支援、生活支援といった地域内のサポート的活動から、情報発信、移住交流など地域外との関係づくり等の活動に移ってきている

◆活動の評価（期待と満足）

- 自己実現、面白さは、期待ほどではない
- 一方、生活環境、注目度は、期待以上

◆活動の課題

- 住民・行政職員とのコミュニケーションのほか、技術・知識の習得や活動の目的・内容の明確化を課題として挙げる隊員が多い

終了・定住

◆定住に向けた課題と意向

- 定住に向けては、技術・知識の取得、任期後の活動目的・内容の具体化及び資金の確保を課題として挙げる隊員が多い
- 定住意向を持つ隊員が約５割、そのうち起業意向を有するのが約６割で、その割合は上昇している。
- 起業意向を持っている隊員の８割が、資金面の不安を有している